

三豊の子どもたちの

健やかな成長のために

少子化、情報化、子どもを狙った犯罪の増加など、社会が急激に変化し、子どもを取り巻く環境や子ども自身が大きく変化しつつあります。三豊市もこの例外ではありません。

次代を担う子どもたちの健やかな成長は、私たち市民全体の願いでもあります。三豊市の子どもたちの教育について岩倉教育長と市長が話し合いました。

教育の基本は、早寝・早起き・朝ごはん

市長

教育長にまず、現代の教育の課題についてお聞きします。

教育長

子どもたちの学力の低下、生活習慣の乱れ、忍耐力や挑戦意欲の低下が全国的な問題となつていきます。

平成16年に「生徒の学習到達度調査」の結果が公表されました。これは3年ごとに行われる世界的な学力調査ですが、日本の子どもたちの学力は、前回調査より順位が下がりました。同じ年に行われた同様の調査では、日本の子どもたちはテレビやビデオ、ゲームをする時間が世界平均より多く、逆に家庭での手伝い、学校以外での勉強時間は少ないという結果が出ました。

また、香川県が朝食・手伝いと学力の関連を調べた調査では、朝食をほとんど食べない子どもが中学生で3・3%、小学生で2・6%。朝食をきちんととることも手伝いなど、基本的な生活習慣のできている子どもはできていない子に比べて、少しですが学力が高いという結果が出ています。

このようなことから、家庭で基本的な生活習慣を身に付けさせることが、いまの教育の課題と考えています。

市長

基本的な生活習慣という言葉の響きからは、なにか難しいことのような印象を受けますが、手伝いの時間を増やす、テレビやゲームの時間を少し勉強の時間に回す、朝ごはんを食べるといふ、とてもシンプルなこと、決して難しいことではないようですね。保護者の方にぜひお願いしたいですね。

教育長

いま全国的にも、基本的な生活習慣の重要性が叫ばれており、今年度文部科学省は「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉にした、子どもたちの基本的な生活習慣の育成のための運動を行っています。

この、基本的な生活習慣は、「食育」とも深いつながりがあります。食育とは簡単に言えば、「食を通して子どもたちの豊かな人間性を育み、健康な体と生きる力を身に付けさせること」です。しかし、学校でできることは給食などで、食育のほんの一部に過ぎません。

基本的な生活習慣にも食育にも、家庭の役割は何より重要ですから、保護者の皆さんへの啓発を行っていきたいと思います。

「体験」は「夢」の母

市長

子どもたちの挑戦意欲が低下しているとのことですが、どのようにしたら挑戦意欲ができるとお考えですか？

教育長

挑戦意欲低下の大きな要因は、「体験の不足」にあると思います。子どもはさまざまな体験を通して夢や大志を抱きます。夢や目標があれば、それを実現するために勉強やスポーツにチャレンジしようという意欲がわいてくるのではないのでしょうか。

いま、中学校では職場体験で、いろいろな職業を現場で体験するキャリア教育に力を入れていますが、これに限らず、さまざまな体験をおして、子どもたちに「夢」を持ってほしいと思っています。

子どもたちの体力を日本一に

市長

三豊市の子どもの体力についてはどうですか？

教育長

香川県のデータでは、ここ数年、三豊市の小・中学生の走力(50メートル走)、投力(ボール投げ)の握力が全国平均より低いという結果が出ています。高校生になると全国平均を上回るのですが、幼少期の体力づくりが三豊市の教育の一つの課題となっています。

市長

元気な子どもは私たちの夢ですね。私は勉強ももちろん大切ですが、何よりも体力が大事だと思います。社会に出ると勉強より体力

がものを言います。

できれば、体力では三豊市が「香川一」に。そして、いつかは「日本一」を目指したいですね。

教育長

幼稚園や保育所でも子どもたちの体力づくりを考えてきています。私たちも関心を持って進めていかねばならないと考えています。

三豊市を誇りに

市長

最近、教育基本法の改正問題で「愛国心」という言葉が物議を醸しています。

愛国心の是非は別として、私は子どもたちに郷土を愛する気持ち「郷土愛」を持ってほしいと願っています。

教育長

合併して半年が経ちましたが、私たちはまだまだ旧町の枠にとらわれているように思います。

自分の住んでいるところも他のまちも、よく見てよく知ることによって三豊市への愛着が生まれてくると思います。三豊市内のイベントには進んで参加してもらおうように、保護者の皆さんにもお願いしています。

郷土を愛する心から郷土を誇りに思う気持ちが育まれるのではないのでしょうか。

市民全員が子どもたちのガードマンに

市長

子どもたちが犠牲になる犯罪が増え、子どもの安全を守ることが大きなテーマになっています。

三豊市では警察・育成センター・教委・市

当局で話し合い、3カ月間、試験的に不審者情報を放送を通じてお知らせすることになりました。

市内各地で子どもの見守り隊や安全パトロールなどが結成され、活動してくれています。走る車、歩く人すべて三豊市民7万人が子どもたちのガードマンになってくれれば、これほど強力なものはありません。

教育長

教育委員会でも、これまで保護者の方には不審者情報を周知していましたが、一般市民の方には知らせていませんでした。

毎月開かれている幼稚園・保育所の保護者との対話集会でも要望があったため不審者情報の放送を開始したのですが、このことで市民全体の子どもの守るうという意識が高まってくればと期待しています。

最後に不登校児対策についてお知らせしたいのですが、高瀬町公民館に不登校対策教育支援センターができ、不登校児の受け入れ態勢が整いました。

子どもたちが心を開いて相談したり、話しができるように指導員が常駐しています。学校を通じてお知らせしていますが、関心のある方は学校教育課(73・3011)へご相談ください。



市長と語る岩倉道夫教育長